

サイトメトリー技術者認定試験 合格体験記

I.はじめに

この度はこのような機会をいただき、日本サイトメトリー学会関係者の方々に感謝申し上げます。私はこれまでいくつかの研究機関でフローサイトメーター（FCM）を使用してきました。ソーティングを用いたシングルセルクローニングや、動物の血液中の白血球や血小板の活性化等の解析を行ってきました。この体験記が、研究目的でFCMを使用している方々の受験対策としてもご参考になれば幸いです。

II.受験の動機

研究を進めていく中で、抗体の選定方法や蛍光補正、ゲーティング等、解析者の技量で差が出る部分が多々あり、研究機関ごと、使用者ごとに多少の違いがあることが気になっていました。そこで、きちんと基礎知識を持ち、様々な条件に付いて自分自身で根拠をもって選択できるようになることが、FCM使用者として重要だと感じました。また、動物を用いた非臨床試験を行う中で、臨床でどのようにFCMを使用しているのか知ることが重要だと考え、講習会参加と認定試験受験を決めました。

III.認定試験対策について

私の周りには認定試験を受験した知り合いはいなかったため、受験対策は学会ホームページを参考に行いました。まず、「スタンダードフローサイトメトリー第2版」を読み込みました。フローサイトメーターの原理や構造、蛍光色素の特徴などは使用経験があるおかげでそれほど難しくありませんでしたが、人の血液の表面マーカーや疾患の特徴などの臨床の知識が足りず、インターネットや他書籍を利用しながら重点的に勉強しました。その次に「認定サイトメトリー技術者」筆記試験用到達目標」にチャレンジし、そこでわからなかったところや足りない部分をさらに勉強しておきました。

IV. 技術講習会について

技術講習会では、内容としてはテキストであるスタンダードフローサイトメトリーに書いてあるような基本的な部分から最近の知見や実用的な症例問題まで、多岐にわたる授業でした。専門の違う数名の先生方が講師としてお話をされているため、こぼれ話なども興味深く、長丁場でしたがあっという間の講習会でした。ただ、講習会を受ける時点でテキストの内容は頭に入っている状態でないと、情報量が多くついていけなかったかもしれないと感じましたので、事前の予習は大事だと思います。テスト対策として重要な部分はわかりやすく説明していただけるので、集中力を切らさず講習会に臨むことが合格への近道だと思います。

V. 認定試験について

試験は、表面抗原コースと DNA コースが選択でき、私は前者を選択しました。試験は、共通問題 25 問・表面抗原問題 25 問の選択問題で、回答用紙に選択番号を記載する形式で、試験時間は 90 分でした。60 分以降は退出が可能でしたが、見直しを含めると 90 分でちょうどいい問題量だったと思います。出題された問題としては、テキストと講習会で話した内容からほとんどで、一度も聞いたことのないような知識を問う問題はなかったように思います。ただ、選択肢を複数選ぶ問題もあり、選択肢ひとつひとつ正しく正否を判断していかないと正解にたどり着けないので、出題範囲を丁寧に勉強していくことが大事だと感じました。

VI. さいごに

今回の受験を決めてから、あらためて FCM の基礎知識を学びなおし、また造血器腫瘍検査の知識など新たな勉強もでき、自分の中で FCM の専門性が確実に上がったと感じました。この度、無事に技術者認定をいただきましたので、さらに自分の知識や技術を伸ばしてだけでなく、得たものを他の FCM 使用者に伝えられるような立場になれるように努めたいと思います。